

「払い打つ」なんてウソ! アイアンは打ち込む!

特別付録 大好評! 分冊レッスン

読者が教えて欲しい
プロNo.1



真 芹澤信雄
ゴルフ理論

Part 2

考え抜いた末のハットの結論

池田勇太

3Wを打つ時は
左足の踏み込みを
大きくする

上手い人は

**ドライバーが
曲がらない!!**

その**“共通点”**はコレ!

特別定価

¥580

第2・第4
木曜日発売

10.27

[アルバ]

秋の
飛躍号!
第2弾

ゴルフ歴の
長い人に出る
スライスって?

ツアーAD、今度は
青の新作が出る!

あなたには合うのか?
今季、優勝パターの
入り度チェック!

今週、注目の
日本オープン!
そのタイトルと激闘譜

逆目のラフ...
こんな時、どう寄せる?

Yuta Ikeda



この生き方を見よ！

レギュラーツアーにほぼ皆勤ながら、その勇姿をテレビで見ることはない昨今。しかしジャンボは、準備怠りなく、勝利を目指して今週も闘いに陣する。

再び不死鳥の如く舞うのか、このまま「伝説」と化してしまうのか。

今のジャンボを知るために、聞きつらいことにも鋭く斬り込んだ特別インタビュー。ここで見た顔は、純粹で無邪気な素のままの、尾崎将司。だった！

聞き手 小達敏昭 撮影 岩井康博

ジャンボ 尾崎

ゴルフに選ばれた男

新連載第1回

生涯現役

——いきなり、触れてはいけなさそうなどころからお話をうかがってもいいですか？

尾崎 オイオイ、何だよ。

——最近、「ジャンボはシニアの試合出ないの？」ってアマチュアゴルファーから聞かれることが多いんですよ。ジャンボさんが試合に出てくれたら、レギュラーツアーの遼くんみたいに「うわあー」って盛り上がりと思うんですが……。

尾崎 シニアはまったく頭の中じゃない。俺は「現役」のトーナメントのことしか考えていない。一生現役だって、今までずっと言ってきたからな。

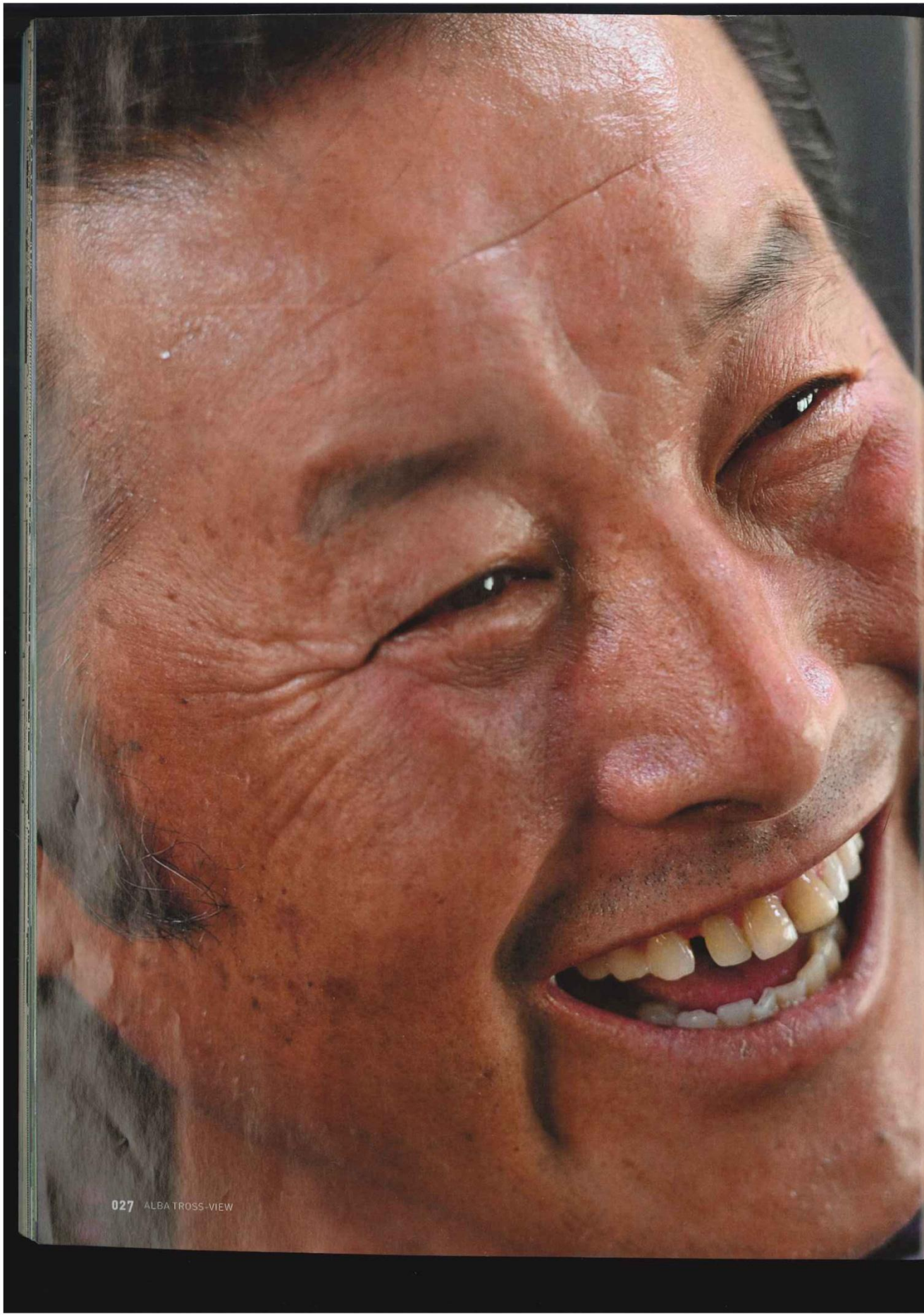
——ジャンボさんはなぜそこまでゴルフへの飽くなき追求心・探究心を持ち続けられるんですか？

尾崎 そうね、自分の場合はゴルフ頭脳というものが発達、成長していつ、他の部分は全然成長していないんだよ。だから、他の成長していない部分っていうのはあまり見せたくない。やっぱり、

自分が「これだ！」と思う道をいかに追求し続けていけるか……それが大事なんだ。それにはただ「練習」するだけじゃダメで、「実戦」の中でこそ、新しい発見、出会いがあるんじゃないかというつも

思う。練習したり実験した結果が、実戦の中でどういう形で出るかは、ゲームの中にしか答えがないんだ。そういう答えを見つけていくのが好きだし、出てきた答えをいかに勝利に結びつけていくかを考える作業が楽しい。やっぱり、ゴルフ人生は発見の旅路、つてわけだな。

昔みたいに、深く考えなくてもやることさえやってりや勝てる、というわけじゃないから、今は大変だぞ。年齢的にも体力的にも。それでも離れていこうとするものを近づけて行こう、行こうという作業を続けているんだ。これが自分のゴルフに対する「愛」かな。ゴルフ頭脳だけが発達してきた自分には、一生これしかできないんじゃないか、と思うよ。





おさき・まさし

1947年1月24日生まれ。徳島県出身。181cm、90kg。64年春、徳島海南高校のエースとして選抜高校野球大会を制し、翌年プロ野球・西鉄ライオンズに入団。プロゴルファーを目指し68年に退団。70年プロ合格。翌71年『日本プロ』で初勝利を挙げたのを皮切りにわずか3か月で5勝。ジャンボ時代の幕が上がった。73年から98年までの26年間に賞金王に輝くこと12度。96年の『ダンロップフェニックス』で前人未踏の通算100勝を達成。現在はその数を113(うちツアー94勝)にまで伸ばしている。2010年10月、世界ゴルフ殿堂入り。マックスインターナショナル所属

おだて・としあき

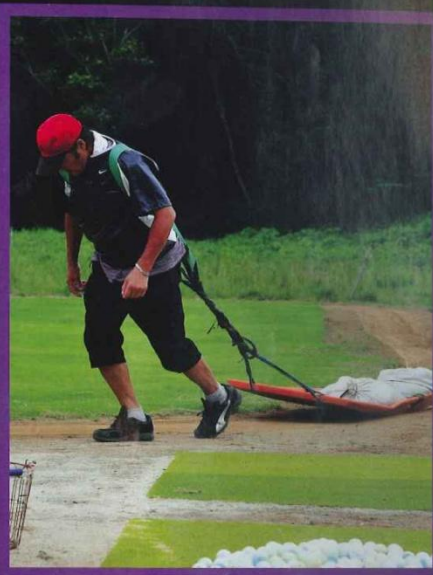
1968年1月8日生まれ。東京都出身。180cm、67kg。10歳でゴルフを始め、中学・高校時代に全日本ジュニア、関東ジュニアなどのタイトルを獲得。日本大学を経て、91年プロ転向。「夏目雅子の弟」として絶大な人気を博す。ツアー2勝。現在、テレビのトーナメント解説やクリニックでのレッスンなどで活躍中

今は試合に行くのが 楽しみでしよつがない

——ジャンボさんは永久シードだから、たとえば90歳まで出ようと思えば出られます。生涯現役ってそういうことですよな?

尾崎 いやいや、それはダメ。そこまでになって出るつもりは絶対ない。試合に出るからには、勝つための条件、つてものが自分に備わってなければムリなんだよ。

それは自分のプライドとしてある。だからこの先、そんなに長くはないと思う。そりゃあ、長く行きたいとは思ってるよ、もちろん。70歳になっても300ヤードを目指したいし。やっぱり夢を追いたいわけだからさ。ただ、その夢を追うには条件がある。一番簡単な条件でいうと、「体力」。もしタイヤすら引けなくなったら、そんなもん、ゴルフやっつてること自体つまらなくなるよな。自分が「これだけのスピードでスイングした



自宅の庭で重い砂袋(タイヤ)を引くジャンボ。この重さのものが引けなくなったときがやめ時かな、と語る

い」と思ったときにそれができないければ、これはもう一番最低。まだ体調万全ではないし、いいゴルフを見せられないから、今一生涯命タイヤを引いているんだよ。

——タイヤを引き、加圧トレーニングをやり、クラブを調整して試合に臨んでいるからこそ、今季ドライビングデイスタンスで50位以内に入ってるわけですよな。

尾崎 待てよ! 50つてのは許せないだろ、50は。俺としてみれば、最低条件として、やっぱり30位以

内にはいらないとな。だから計測ホールに来ると、リキんでいい結果が出ないんだよ、結果を見るのがシャクにさわってね(笑)。やはり、自分のゴルフは永遠に、生涯現役を実現する意味でも、飛距離についていうのがまず第一条件。これだけは絶対に譲れないものだね。よく、64歳で280ヤード後半を飛ばすことに驚かれたりするが、俺にとつては驚きでも何でも無い。いつも若い選手を相手に「何で俺がアイツより飛ばねえんだ」つてこ

とばかり思ってるしね(笑)。

——ジャンボさんがもつと早く復活するため、ツアーの方で、ギャラリィがもつとたくさん入る組にしてくれればいいなと思います。

尾崎 いや、そのためには、優勝争いをしなくちゃダメだ。ひとつの夢として、優勝争いをちゃんと、また違うジャンボ尾崎を見せたいって気持ちがある。元来負けず嫌いの性格だからな。

いま現在、終わってからの練習こそできないけど、難なく1ラウンド歩けるようになったし。もう、トーナメントに行く前の日の夜なんて楽しみでウキウキよ。子供が遠足に行く日の前の晩みたい。俺、こういう気持ちは、好きなんだよ。言うなれば、単純というか、俺は「幼稚」なんだ。自分の適正に合うものに合つて、それをモノにしていく、これが人生だと思ふ。そういう人間は、ただ目の前に山があるから登る。その山が俺にとつてはゴルフ。単純なことなんだ。

(次号に続く)

小達敏昭の 追っかけ後記

よく聞かれる「ジャンボはなぜシニアに出ないの?」に対するジャンボさんの答えが聞きました。そして、同業のプロゴルファーとしても驚きの飽くなきゴルフへの情熱、その理由も聞けました。いま、ボクが思うのは、ジャンボさんがいかに純粋な少年のような心を持っているか。コワモテであり語るこゝろがないため、誤解されることが多いジャンボさんだけに、それは強くて孤高の。ジャンボ尾崎を演じなければならなかったから。本当はとて純粋な人。読者の皆さんにも伝わったでしょうか。

この生き方を見よ！

自分の能力は、自分が一番良く知っている。スコイヤツのスコさもわかる。野球では与えられることのなかった天命。悶々と過ごす中出会ったゴルフ。自分の能力はすべて、このスポーツのためにあるんじゃないか。「これならもう負けねえ。俺が人生をかけて追求するのはこれだ！」天啓にうたれたジャンボの、負けない人生がここに始まった。

聞き手 小達敏昭 撮影 米山聡明

ジャンボ尾崎

ゴルフに選ばれた男

おざき まさ
1947年7月24日生まれ。徳島県出身。181cm、90kg。64年春、徳島海南高校のエースとして選抜高校野球大会を制し、翌年プロ野球・西鉄ライオンズに入団。プロゴルファーを目指し68年に退団。70年プロ合格。翌71年、「日本プロ」で初勝利を挙げたのを皮切りにわずか3か月で5勝。ジャンボ時代の幕が上がった。73年からも98年までの26年間に賞金王に輝くこと12度。96年の「ダンロップフェニックス」で前人未踏のブロ通算100勝を達成。現在はその数を113(うちツアー94勝)にまで伸ばしている。2010年10月、世界ゴルフ殿堂入り。マックスインターナショナル所属

新連載第2回

天命

ゴルフなら、もう負けることはねえ!

——1964年に甲子園で優勝し、西鉄ライオンズに入団されました。野球が天職にならなかったのはなぜですか?

尾崎 俺はね、中学校の野球部に入った頃から、少し野球に冷め始めてきてたんだよ。はい、ピッチング練習で100球投げて、はい、グラウンドを走って……。毎日こんな同じことの繰り返しなんだな。非常に面白くないんだわ。

確かに当時から、野球では誰にも負けない、という自負はあったよ。ボールを遠くへ飛ばすための肩の力なんて並外れていた。野球だけじゃないよ。他の様々なスポーツの分野でも自分が人に負けて

いるとは思ったことがなかったな。プロ野球選手になつてからも、ボウリングやビリヤード、テニス……何をやっても負けなかったし、絶対に負けたくなかったね。寮の裏でバットを使って野球のボールをカップに見立てた穴に入れるゲームなんかもあったよ。そういうのでさえ、負けたことなかった。

そんな俺が、なぜ野球では大成しなかったか、というのが分からな……。というのはウソで、本当の理由はちゃんと知ってるんだよ、言わないけどな。

——甲子園の優勝投手であるジャンボさんをもつてもダメなんですか?

尾崎 いや、そんなのは関係ない。まあ、たしかに自信満々で入団したのに……。自分の能力は自分自身が一番分かっていたからね。なかなか開花せずに悶々とした日々を過ごしてたな。「俺、何やってんだ!」って自分でも歯がゆかった。そんな中、ゴルフに出会ったんだ。「これいいなあ」とか、「ゴルフって楽しそうだなあ」とか、そういう軽いもんじゃなかった。要するに、俺が人生をかけて、一生をかけて追求するのはこれだ!! っていうくらいに衝動的な出会いだった。これなら、もう負けることはねえ! って、確信した。

負けても勝っても反省 「努力の仕方」の天才

「ゴルフとの出会いはそんなに
も衝撃的だったんです。」

尾崎 野球では天命を受けたとは思ってないが、ゴルフには間違いなく天命を感じたね。自分のすべての能力が、ゴルフに一体化した、という感じがな。野球じゃない、ゴルフだ、ということをはっきりと見つけることができたんだ。

ゴルフっていうものを、ジャンボ尾崎というものを確立させているのは、もちろん野球だよ。すべてに野球が活きているんだ。活きているなんてもんじゃない。嫌々でも走ったり、体を作ったりしたことが全部ゴルフのためにつながっている。あそこに投げたんだ、っていうピッチャーならではの指先のコントロールも訓練されたし、運動に必要な体重移動とか、運動力学なんかも野球時代に学んだ。それでプロ入りした翌年、い

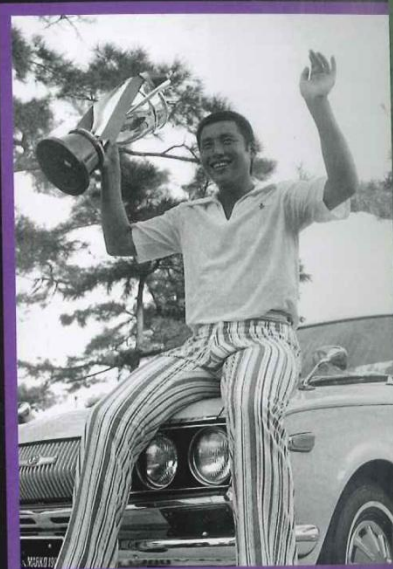


1964年春のセンバツで初出場初優勝を成し上げた翌年、西鉄ライオンズに投手として入団。同期に下関商業で甲子園を沸かせた池永正明がいた。入団1年目に20勝、その後5年間で103勝を上げた池永にはとうていかなわないと思ひ知らされ、打者に転向。二軍では4番を任されたが一軍では目立った活躍ができず1967年限りで西鉄を退団。当時の打撃コーチに進言され、プロゴルファー転向を決意した。

きなり優勝ですよ。

尾崎 俺がこの世界に入った頃はそんなにレベルが高くなかった。人間的にも、スポーツマン的な能力についてもね。だから、俺がいろんな記録を作れたのも、そういう条件があったからなんだ。でも今は、底辺がすごいもんな。

不思議なことに、ゴルフである程度ものになってからでも、夢を見るんだわな。夢の中で、野球にしようかゴルフにしようかと悩んでいる自分がいるんだよ。そうやって悩んでいる自分がいるっていうのは、やっぱり長嶋茂雄さんや



プロ入り翌年、「日本プロ」で初優勝。以降、破竹の勢いで勝利を重ねた

王貞治さんという、野球を極めた人たちと自分も同じ舞台にいたんだという思いがどこかにあるんだろ。うな。そういう人たちにも負けたくないっていうところがあるような気がする。15年くらい野球をやってきたからね。夢に野球が出てくるっていうのは、ありがたいっていう感謝の気持ちが深層心理に出てくるんじゃないかな。

——ゴルフに天命を受け、天才が発揮された。

尾崎 「努力の仕方」は天才だろうな。結果が出る出来ないに関係なく努力する、これが「天才の条件」



おだて・としあき

1968年1月8日生まれ。東京都出身。180cm、67kg。10歳でゴルフを始め、中学・高校時代に全日本ジュニア、関東ジュニアなどのタイトルを獲得。日本大学を経て、91年プロ転向。「夏目雅子の弟」として絶大な人気を博す。ツアー2勝。現在、テレビのトーナメント解説やクリニックでのレッスンなどで活躍中

だと思っているからな。よく、優勝を逃して2位でも負けることに価値があるっていわれるのは、負けてこそいろいろな反省材料が出てくるから。でも、俺の場合は優勝しても会場から家までたどり着く間に、自分がやったミスがずーっと頭の中に出てくるの。何であそこであんなミスをしたんだろ、ってずーっと考えてしまう。そう

なると家に帰ってすぐ、クラブを持たなきゃ気が済まない。夜中の2時半だってひらめけばパシバシ素振りをしたりする。まあ、貧乏性というか、これもゴルフ愛だな。やっぱり勝利っていうのは一瞬なんだよ。越えればまた次に行かなければいけない。そういう世界スポーツをする、勝負をする人間にとつて一番の宝は何かと言ったら、次の一勝だからね。次の勝ちにしか意味がない。だから、次の勝ちに向かつてすぐ進む。それしか頭がない。終わらないんだ。

(次号に続く)

小達敏昭の 追っかけ後記

プロ野球界からの転身。スポーツ界では過去にない成功例ですが、まさか、ご本人が「天命」と表現するほどの出会いであつたとは……。ボクにとつての、球聖・ジャンボ尾崎。ゴルフをやりたいが、初めて会った瞬間、圧倒されてしまいました。カッコイイし、強いし。こりやダメだ！この人に勝てるわけがない、って思うまでは早かつたですね。この人の影で、この先細々とやってかなきゃいけないんだなあって。やはりゴルフに選ばれた男は全然ほかとは違う……というのが本音です。